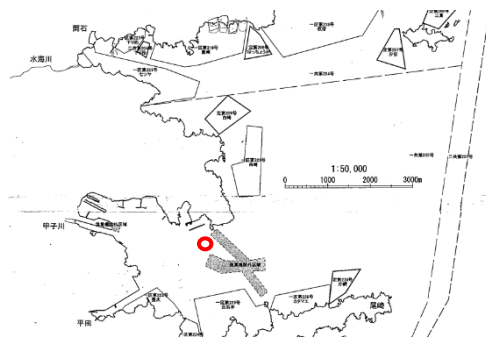


サクラマス海面養殖試験について

1 サクラマス海面養殖（第1期）の結果について

【試験概要】

- ・試験実施主体は、岩手大学、(有)泉澤水産、釜石湾漁業協同組合、日東製網(株)、釜石市によるコンソーシアム
- ・学術的試験要素が大きいことから岩手大学が研究代表機関
- ・釜石湾港防波堤内側に直径 20m×水深 10m の円形生簀 1 基
- ・静岡県産のサクラマス種苗を使用
- ・当初計画時点では令和 2 年 11 月飼育開始 令和 3 年 6～7 月出荷を予定
- ・海面養殖試験の他、一部を夏越しさせる試験を実施
- ・陸上での養殖に適したサクラマスの育種開発試験と併せて実施



【第1期の結果】

項目	開始時 (R 2. 11/10)	計画見込	実績 (R 3. 6/21)
養殖尾数	約 12,000 尾	8,800 尾	7,821 尾
生残率	-	73%	65%
平均サイズ	250 g /尾	1.5 kg /尾	1.6 kg /尾
市場単価	-	700～1,000 円/kg	831 円/kg

- ・釜石湾の港湾内において、サクラマスの養殖が可能である。
- ・サクラマスに一定の需要があり、価格動向を確認できた。
- ・官能試験や成分分析の結果により、刺身や焼き魚として商品化が可能である。
- ・飼育中の水温・D O（溶存酸素量）の遠隔モニタリングが実証できた。

【課題】

- ・生残率が想定していた計画より低迷した。計画 73%は静岡県網代での事例
- ・価格形成のためギンザケやトラウトの出荷時期と重ならない 7 月出荷を予定していたが成熟が早く、6 月に出荷を余儀なくされた
- ・へい死の状況について、毎日確認できなかつたため、発生原因や経緯の把握が不十分
- ・平均体重について、サンプル測定時と出荷実績に相違があり、サンプルの確保方法に課題が残った
- ・予定より早い出荷となったため、市内関係者向けの十分な市場調査が実施できなかった

2 サクラマス養殖試験（第2期）の計画について

【試験概要】

- ・主な内容は第1期と同様
- ・変更点として飼育尾数を約20,000尾に増加（前期の約2倍）
- ・第1期の課題を踏まえ、サンプル採取方法、モニタリング等を変更
- ・価格形成などの市場性調査とマーケティング戦略の検討
- ・一部の夏越し試験も継続実施
- ・陸上での育種研究も継続実施

3 ギンザケ養殖試験（第1期）の計画について

【試験概要】

- ・釜石湾沖にて浮沈式生け簀を活用したギンザケ養殖試験を実施
- ・夏場の高水温期を水深の深い所で養殖することにより、他地域と出荷時期の差別化を図るとともに、成熟度を増すことを目的に試験実施
- ・ギンザケ養殖は広く行われている中で実用化検証要素が強いことから釜石湾漁業協同組合が代表機関
- ・釜石湾半島部（白崎漁場）に直系20m×水深10mの円形生簀1基（海中沈下時の施設上面を水深約20mに移動可能な浮沈式生け簀）
- ・県内産のギンザケ種苗を使用
- ・令和3年11月飼育開始 高水温期（8月予定）に生簀を沈め令和4年9～10月出荷予定

【概要】

項目	開始時（R3.11）	出荷見込（R4.10まで）
養殖尾数	約5,000尾	3,750尾
生残率	-	75%
平均サイズ	170g/尾	3～5kg/尾
平均単価	-	550～800円/kg

